

### 第3回 基礎自治体による行政サービス提供に関する研究会 議事要旨

#### 【開催日時等】

- 開催日時：平成25年9月30日（月）10：00～12：00
- 場 所：総務省10階 共用会議室2
- 出席者：辻座長、大杉座長代理、伊藤委員、片山委員、鎌田委員、勢一委員、立石委員、沼尾委員、林委員、諸富委員、山本委員  
事務局：門山自治行政局長、山崎大臣官房審議官、時澤行政課長、原市町村課長 ほか

#### 【議事次第】

- (1) 開会
- (2) 鎌田委員選定テーマについて
- (3) ヒアリング結果について
- (4) 閉会

#### 【資料説明等】

- まず、鎌田委員から、六次産業化の取組事例として、JR東日本による青森県青森市におけるシードル加工の取組が、地域の地方独立行政法人が保有する酒造技術の活用により成功したこと、将来的にはJR東日本のみならず複数の主体がシードル加工に参入し、フランスの「シードル街道」のような観光地となることが目的であること、消費者ニーズの視点から六次産業化を考える重要性等についてご説明いただいた。また、行政には、ビジネスマッチングにとどまらず、継続的な支援や技術のオープン化等が求められることについてご指摘いただいた。
- 続いて、事務局から、配布資料に基づき説明した。

#### 【意見交換（概要）】

（鎌田委員選定テーマ関係）

- 独占的に事業を行おうとするのではなく、地域に競争相手を増やすことにより、シードル街道を作り出したい、そして競争により自分たちも鍛えられるという発想が興味深かった。
- JR東日本によるシードル工場の立地をきっかけとして、様々な企業が立地し、産業クラスターのような様々なイノベーションが起きることで、農業を基軸にした産業の構築が可能になることを期待している。

- 地産品の通信販売では、相当の規模にならない限り、なかなか雇用の創出につながらない。雇用の創出は観光客の増加があつてこそだと思つるので、観光地を作り出すという目的には非常に共感した。
- 地方にいと、新しいことに取り組む勇気が不足しているように感じられる。今の生活に満足するのではなく、後の世代がこの水準を維持できるようにするために今何をすべきかという視点が重要であり、成功事例を作ることにより、一歩踏み出す勇気を持ってもらうことが必要。
- 地方が貴重な技術を持っていても、地域振興にうまく生かされていないことが多い。地方の技術と首都圏の開発マインドをうまく組み合わせられるような政策を実施できれば、技術が「宝の持ち腐れ」にならないようにできる可能性があるのではないか。
- 行政が地産品販売等に関わつて成功していない事例では、売上げ動向等のデータを把握できていない場合が多い。取り組み方次第では、地産品は十分に売れるのではないか。

(事務局からの説明関係)

- 市町村への権限移譲が進む中で、人材、財源、やる気のある市町村とない市町村との格差がこれまで以上に生じやすい状況になっていることを考えると、都道府県が市町村を補完していくという仕組みは、今後の地方分権を考える上で非常に重要な視点なのではないか。
- 都道府県は、小規模市町村で処理が困難な事務について補完するという役割だけでなく、地域振興等の企画部門の仕事について、都道府県単位で広域的に考えることで有効性を発揮するというような、積極的な役割を担っているのではないか。
- 都道府県と市町村との連携における都道府県の役割については、小規模市町村で処理が困難な事務を代替して処理するという考え方もあれば、D県の事例のように、地域資源の掘り起こし等を積極的に行っていくという考え方もある。どのような目的や課題があり得るかについて、検討を深めていくべきではないか。
- 都道府県と市町村との連携に関しては、市町村における職員の不足を都道府県が補う場合に、当該職員は都道府県の職員のままでいるのか、市町村の職員の身分となるのか等、パターンの違いに留意すべきではないか。

以上